

日本史A課題プリント5

4 尊皇攘夷から倒幕へ

教科書 p.30-31

[尊皇攘夷運動の高まり]

幕府の無勅許調印によって尊皇攘夷論がさかんになってきた。1860年には井伊直弼が水戸藩浪士によって殺害される(①))がおこり、権威を失った幕府は(②))政策によって支配を強めようとしたが、尊攘派の反発を招いた。1862年薩摩藩の(③))による改革案を受け入れた幕府は、文久改革を実施した。将軍後見職に(④))、政事総裁職に(⑤))、京都守護職に(⑥))を任じ、幕府の再編を図った。一方、長州藩は京都の尊攘派の公家とむすんで、幕府の攘夷決行を約束させ、みずからも攘夷を決行した。朝廷への影響力を高める長州藩に対して、幕府側は会津藩や薩摩藩が中心となり、(⑦))で長州藩を京都から追放した。その後長州藩は、(⑧))で会津・薩摩両藩に破れ、第1次長州戦争で幕府に追撃を受けた。

[薩長同盟]

1863年に生麦事件報復のため(⑨))がおこった。翌年には攘夷決行の報復のためにイギリスが中心となり長州を攻撃する下関戦争がおこった。攘夷の無謀さを悟った薩摩藩では(⑩))や(⑪))が中心となり軍備強化をすすめ、長州藩では(⑫))や(⑬))らによって藩の方針を倒幕へと転換させた。対立していた両藩であったが、(⑭))らの仲介で1866年に(⑮))がむすばれた。幕府も軍制改革を実施したが、長州藩の再征は失敗に終わった。

[世直しと倒幕]

第2次(⑯))による戦費の負担と物価騰貴は民衆の生活を直撃し、(⑰))を求める一揆や打ちこわしが最高潮に達した。また、近畿・東海地方では民衆が歌って乱舞する(⑱))がおこり、幕府の統治は崩壊の危機に直面した。1866年12月に公武合体を主張する(⑲))が休止したことで、薩長両藩と公家の(⑳))らは武力倒幕の準備をすすめたしか15代目の将軍(㉑))が前土佐藩主(㉒))の建議を受け入れ、速やかな(㉓))が行われたため、武力倒幕の機会は失われた。その後、(㉔))が発せられて新政府が樹立し、(㉕))によって慶喜の(㉖))が決定した。

5 明治維新と新政府の成立

教科書 p.32-33

【戊辰戦争と農民弾圧】

1868年、旧幕府側は兵士を京都に進撃させたが、(①) で薩長軍に敗れた。新政府は「朝敵」(②) をうつため、征討軍を江戸に向け、江戸を開城した。東北と北越諸藩は(③) をつくって新政府に対抗したが、新政府軍に破れた。さらに翌年には箱館の(④) で交戦を続けていた旧幕府軍も敗れ、約1年5か月におよんだ(⑤) は新政府側の勝利で終結した。幕藩体制を解体し、近代国家を確立していく社会変革の過程を(⑥) という。この過程で、倒幕派も新政府も世直しを求める民衆の存在を利用したが、変革が一段落すると新政府に反発する人々に対しては厳しい態度でのぞみ、時には弾圧することもあった。

【新政府の基本政策】

1868年、新政府は天皇が神に誓う形式で、(⑦) を発表し、公議輿論の尊重と開国和親の重視が強調された。民衆に対しては(⑧) を示した。続いて閏4月、(⑨) で古代の制度に習った(⑩) を定め、新政府の仕組みを整えた。7月には江戸を(⑪) と改め、9月には元号を(⑫) にかえ、天皇一代では同じ元号を用いる(⑬) をしいた。

【中央集権化への道】

新政府の実権をにぎったのは、薩摩・長州・土佐などの藩を代表して活動していた改革派の武士たちであった。彼らは藩を廃止して権力を中央政府に集める必要があると考え、1869年薩摩・長州・土佐・(⑭) の4藩主に働きかけ、(⑮) がおこなわれた。ほとんどの藩主もこれに続き、政治的・軍事的な権力が朝廷のもとに集中した。しかし、藩そのものは否定されず、新政府は藩主を(⑯) とし、藩政の改革をすすめさせた。1871年新政府は、薩・長・土3藩の兵1万人を東京に集めて(⑰) をつくり、政府直属の軍隊とした。そしてこの軍事力を背景に261藩を廃止し、かわりに府県を置く(⑱) を断行した。藩主を東京に移住させ、(⑲) には政府の管理を任じた。こうして中央集権的な権力が成立した。